

## 第 10 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時 2016 年 2 月 18 日 (水) 13:30~15:40

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

### 1. 燃料デブリ取り出しに関する主な研究について

NDF より、燃料デブリ取り出しに関する研究開発のうち、以下 4 件のプロジェクトについて、開発の取組状況と次期計画について説明を行った。

#### (1) 燃料デブリの性状把握プロジェクトについて

専門委員からの主な意見は以下の通り。

○燃料デブリの分析に関する計画戦略を俯瞰的に整理すべきである。

○燃料デブリの分析を主体的に行うことで整備が進められている大熊の分析施設だけでは、将来的にすべての要求に対応できない可能性もあり、その他の機関の活用についても考えていくべきである。

#### (2) 燃料デブリ取り出し工法プロジェクトについて

専門委員からの主な意見は以下の通り。

○工法上の安全に関し、現状考えている重要点についての説明があったが、考えるべき具体的な項目への対応を明確にするべきである。

#### (3) RPV/PCV の構造健全性プロジェクトについて

専門委員からの主な意見は以下の通り。

○現状の健全性評価は、東日本大震災以前の耐震設計基準に従って行われているが、その後定められた新規制基準に基づく地震時条件と燃料デブリ取り出しに関わる設備の評価をどう考えるかの検討が必要である。

○基本的に、新設の設計基準を指向する新規制基準と、既存の設備の運転時安全の判断基準の違いを認識して議論をすべきである。

○ペDESTALの温度履歴や侵食について、事故進展解析の結果を基にした検討が行われているが、解析コードによって評価結果の違いもあり得る。解析による幅や精度についても考慮し、裕度を考えておくべきである。

#### (4) PCV 補修プロジェクトについて

専門委員からの質問に対し、東京電力より、サブプレッションチェンバ脚部補修でモルタルをトラス室に充填する方法を採用した場合に地下水管理との関係で注意すべき事項について説明があった。

## 2. 次期研究計画（全体）について

資源エネルギー庁より、中長期ロードマップの実現に向けた次期研究開発プロジェクトについて、補正予算の成立、今後の開発計画の執行予定について説明があった。

NDF より、次年度以降に向けた研究開発プロジェクトの取組内容の検討経緯と、次年度に向けた 14 件のプロジェクトの内容を一件一葉としてまとめた内容について説明を行った。

専門委員からの意見とそれに関連する議論が以下の通り行われた。

○PCV 補修実施のための現場の除染に関して、それぞれの現場で高線量の原因となっている線源を特定して必要な技術開発がなされるべきとの意見があった。これに対し、NDF より、除染が必要な箇所に対して具体的に線量分布を調査、分析したうえで、開発を追加していくことを考えること、また、東京電力より、一部の配管、ダクトなど個別に特別な対応が必要な箇所について準備を進めているとの説明があった。

以 上